



2021年2月8日

日本鉄道労働組合連合会

## J R 東海ユニオン第35回中央委員会

### 組織の総力を挙げてユニオン運動を前進させ

### 未来への確かな足場を築き上げよう！！

～中央委員会において決定した方針【概要】～

- 定期昇給標準乗数「4」、月例賃金総額の2%相当の改善、うちベースアップ1,000円を要求  
夏季手当2.5か月を要求
- 安全に関する情報共有化と安全衛生活動の強化
- 対話を通じたコミュニケーション活動の充実

J R 東海ユニオンは、2月5日、ホテルアソシア静岡にて第35回中央委員会を開催した。今回は緊急事態宣言が発令される中での開催であることを踏まえ、委員会構成委員の多くがテレビ会議システムを活用して遠隔から参画する中で執り行われた。J R 連合からは荻山市朗会長、尾形泰二郎事務局長が参加した。

冒頭、挨拶に立った鎌田茂中央執行委員長（J R 連合副会長）は、「会社を取り巻く環境は極めて厳しい状況である。先月からは一時帰休が実施されている。しかし、こうした苦境を乗り越えるためにも、これまで以上に組織の総力を挙げた取り組みが重要。そのために、従前にも増して各級機関・組合員との意思疎通を深め、対話を重ね、3年目となる「UNION FUTURE ⇒2027」を着実に推進させることが必要不可欠であり、本日提起する当面の重点活動を全ての組合員と共有した上でユニオン運動を実践しよう！」と述べ、2021春闘方針をはじめとする当面する諸課題に対して真摯な議論と決定以降の職場における推進を呼び掛けた。

質疑では7名の中央委員から、春闘、安全確立をはじめとする業務課題、組織の活性化、ハートフルカンパニーの実現に向けた取り組みなどについて発言があり、執行部の各担当から丁寧な答弁と政所大祐書記長（J R 連合執行委員）による総括答弁が行われ、2021春季生活闘争方針をはじめ当面する諸課題に対する活動方針を満場一致で確認した。

